

## 第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武		整理番号	33
基本施策	10	地域福祉の推進	評 価 責 任 者	保健福祉課長 山崎 佳之	
単位施策	1	福祉意識の醸成			

### 1 施策の概要

<b>基本方針</b>	保育・幼児教育、学校教育、社会教育の中で一貫した福祉教育を推進するとともに、広報活動、イベントなどあらゆる機会を通じて、福祉意識を醸成する。	
<b>現状と課題</b>	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	少子高齢化、世帯人員の減少、知縁での人間関係の希薄化などが進む中、民生児童委員・ボランティアの方々等と風の子児童センターの子どもと行事の中での交流、敬老会等での保育所とお年寄り及び学校の総合学習での地域との交流をとおして、互いに協力しながら助け合う心と責任を持つことの大切さを理解する貴重な体験をさせる事業を実施。	少子高齢化、世帯人員の減少、知縁での人間関係の希薄化などが進む中、民生児童委員・ボランティアの方々等と風の子児童センターの子どもと行事の中での交流、敬老会等での保育所とお年寄り及び学校の総合学習での地域との交流をとおして、互いに協力しながら助け合う心と責任を持つことの大切さを理解する貴重な体験をさせる事業を実施している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	総合学習や生涯学習等多くの機会をとらえて福祉教育や啓発活動を推進するとともに、今後も高齢者と子どもとの交流事業の実施や福祉に関するイベント等の開催をとおして福祉意識の醸成を図っていくことが重要。	小中・高校や保育所では、福祉施設の訪問や地域の高齢者との交流などを通じて福祉教育を推進しているが、少子高齢化や核家族が進行するなか、福祉活動の重要性が拡大する一方、住民の福祉に関する意識や知識、技術は十分といえない状況であり、福祉問題に関する啓発に努めるとともに、誰もが気軽に体験しながら福祉について学べ、実践できる体制づくりを進めていかなければならない。

<b>指標1</b>	指標名	福祉施設等での福祉体験の年間延べ人数						
	定義等	福祉施設等での福祉体験の年間延べ人数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							現状維持
	実績値	93人（H18）	25人	29人	30人	29人		
<b>指標2</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
<b>指標3</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
<b>指標4</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
<b>指標5</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
<b>指標6</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
<b>指標7</b>	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	社会福祉協議会補助事業	社会福祉係	3,000	A	継続/拡充	A
②	雄武町戦没者追悼式	社会福祉係	136	A	継続/現状維持	A
③	雄武町民生児童委員協議会運営補助事業	社会福祉係	98	A	継続/現状維持	A
④	雄武町遺族会運営補助事業	社会福祉係	40	A	継続/現状維持	A
⑤	紋別地区保護司会雄武支部運営補助事業	社会福祉係	30	A	継続/現状維持	A
⑥	雄武町人権擁護委員協議会運営補助事業	社会福祉係	15	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	民生児童委員と風の子児童センターの子ども、お年寄りと保育所及び総合学習などの場で、児童・生徒の地域交流が行われており、子どもの地域福祉の推進が図られており、妥当である。
② 有効性	A	地域福祉の向上のためには、あらゆる機会を通じて福祉意識の醸成を図るためには、子どもと民生児童委員、お年寄りと保育所及び総合学習などの場での交流は、有効である。
③ 効率性	A	福祉意識の醸成のために多くの機会をとらえての福祉教育や高齢者等との交流、イベントへの参加が地域福祉活動推進に効率的である。
④ 公平性	A	地域福祉の推進のため、民生児童委員、ボランティア、保育所、児童・生徒が高齢者等との交流を行うことは、公平である。
⑤ 町民意見の反映	A	地域福祉の推進のため、民生児童委員、ボランティア、保育所、児童・生徒による高齢者等との交流が、従前から行われており、町民の意見は反映されている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
福祉意識の醸成のため、民生児童委員、ボランティア、保育所、児童・生徒と高齢者等との交流が行われ、地域福祉の推進を図られた。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
福祉意識の醸成のため、民生児童委員、ボランティア、保育所、児童・生徒と高齢者等との交流事業を進めていく。	同左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止